

# 第26回

'15選抜女子駅伝  
北九州大会

- 期 日 / 2015年1月18日 (日)
- コース / 小倉北区・小倉城歴史の道—  
八幡西区・ホテルクラウンパレス北九州  
折り返し 32.8km

一般の部 5 区間 高校の部 6 区間



九電工の4区・黒木沙也花(左)からトップでたすきを受ける5区の宮崎悠香

## 一般の部

### 九電工 全区間で先頭譲らず連覇

九電工が全5区間で首位を譲らない圧倒的な力をみせ2年連続3回目の優勝を果たした。1区で加藤岬が序盤から飛び出し区間賞で流れを作ると、2区のチェビエゴも圧巻の5年連続2区区間賞でリードを広げた。最長区間5区の宮崎悠香は上半身のぶれを抑えた独特のピッチ走法で後続を引き離し、同じ佐賀出身でライバルのデンソー・光延友希、前年の仁川アジア大会マラソン代表のTOTO・早川英里らを上回って区間賞を獲得した。

若手主体のオーダーで臨んだデンソーは2区から2位を守ったものの、最後には高校トップの大阪薫英女学院にかわされた。元興譲館高監督の森政芳寿監督が率いて初の大会となったTOTOは4位でたすきを受けた4区・沢美加が順位を一つ上げ、アンカーの早川も粘りをみせて3位でフィニッシュした。

加藤岬・九電工1区「(先頭集団で様子見の予定が)流れで前に出ちゃったので行っちゃった」  
若松誠・デンソー監督「選手たちは攻めた走りをしたけど、この区間設定ではベストメンバーでないと高校生に勝てないなあ」

森政芳寿・TOTO監督「この1年でできた部分とできなかった部分を整理して、目標を定めたい」

## 高校の部

### 大阪薫英女学院が初出場初優勝

前年12月の全国高校駅伝で初優勝した大阪薫英女学院が立命館宇治との競り合いを制し初出場で初優勝を飾った。1区の前田穂南は立命館宇治に3秒遅れとなったが、粘りの走りを展開。5区の森京香がじっくり差を詰めて残り200mからのスパートで立命館宇治・長谷川汀から首位を奪うと、最後は1分35秒の大差をつけた。

首位争いを展開した立命館宇治は終盤及ばず2位になり、都大路で敗れた大阪薫英女学院に今大会でも敗れ、雪辱を果たせなかった。地元の北九州市立は3区以降の4人が踏ん張り、昨年より二つ順位を上げて3位に入った。

安田功・大阪薫英女学院監督「1区で前田(穂南)がうまく滑り出した段階でいけると思った」

安藤富貴子・立命館宇治3区「悔しい。全国高校駅伝で優勝できるようにチームづくりを頑張りたい」

荻原知紀・北九州市立監督「後半失速したが、2、3年生が頑張った分、その後キープして大きく崩れることなくたすきをつないだ」



高校の部1位でフィニッシュする大阪薫英女学院のアンカー・加賀山恵奈